

ChatGPT に聞いてみた



「BYD はなぜユニークな自動車を市販できるのか、水中の中でも大丈夫、スライド縦列駐車、スパークーがジャンプ、360度ターン、ルーフにドローン、スマホの充電より速い、ブレードバッテリー、10 年 30 万キロ保証 まさに CM 通り「ありかも」ついに水平対向エンジンまでポルシェ、スバルもウカウカしていられない。」

ChatGPT:

BYD(比亞迪:Build Your Dreams)がユニークで革新的な車両を次々に市販できる理由は、いくつかの要因が複合的に作用しています。以下、特徴的な機能に触れながら、なぜそれが可能なのかを解説します。

💡 なぜ BYD は「ありかも」を次々実現できるのか？

① 垂直統合型ビジネスモデル

BYD の最大の強みは、バッテリー、モーター、半導体、車体、ソフトウェアすべてを自社開発・生産している点です。

- ・ 他社はバッテリーや半導体を外注しているが、BYD はそれらを内製化
- ・ サプライチェーンの柔軟性とコスト競争力が抜群に高い

これにより、奇抜で挑戦的な技術もスピーディに市場投入できます。

🧪 実現しているユニークな機能と理由

● 水中走行可能(仮称「水陸両用 EV」)

- ・ 特殊な完全密閉構造、電装系の防水設計
- ・ 中国の一部では洪水・冠水が頻発するため、リアルなニーズも存在
- ・ プロモーション映えするデモ機能もある

● スライド縦列駐車

- ・ 車輪を独立制御するホイールインモーターやステアリングバイワイヤ技術
- ・ これにより「クラブモード(真横に移動)」が可能
- ・ 高度なソフトウェア制御+EV ならではのトルク制御がカギ

● ジャンプするスーパーカー(仮称:仰望 U9 など)

- ・ エアサスペンションに加え、四輪独立のアクティブサスペンション
- ・ バネの反発+電動アクチュエータの動作で「ジャンプ」が可能
- ・ これも完全内製の制御システムあってこそ

● 360 度ターン(タンクターン)

- ・ 左右の車輪を逆回転させる EV 独自の制御
- ・ オフロード EV(如:仰望 U8)では標準機能

● ループにドローン

- ・ ドローン技術を持つスタートアップとの提携 or 自社開発
- ・ 通信制御を車両本体と統合することで「車体拡張」の一部に

● スマホの充電より速い充電

- ・ 独自のバッテリーマネジメントシステム(BMS)
- ・ 新世代のブレードバッテリーは冷却性・耐熱性に優れ、高電圧充電にも対応

● ブレードバッテリー(Blade Battery)

- ・ 安全性が極めて高い LFP(リン酸鉄リチウム)型
- ・ 釘を刺しても発火しないという CM でも話題
- ・ パッケージ効率がよく、衝突安全性も向上

● 10 年 30 万 km 保証

- ・ 自社製バッテリーに絶対の自信
- ・ サービスコストを自社で吸収できるビジネスモデル

ついに水平対向エンジンまで？

2024年末ごろから、「BYD がポルシェ風の水平対向エンジン(フラットエンジン)を模倣したような車を出す」といった報道や噂も出ています。

- 本当に水平対向エンジンを搭載するかは未確認(EV には不要な構造)
- しかし「デザイン」「駆動フィール」「ブランド志向」の面でポルシェ・スバル的な価値観に挑戦しようとしていることは明白

なぜ他社が追いつけないのか？

1. スピード感の違い
 - BYD は年間 20~30 車種を投入するスピード感
2. 実験的な発想でも即量産
 - 「面白そう」な機能を商品として出す勇気がある
 - 特に中国市場ではそれがウケる
3. 政府支援と巨大市場
 - 中国政府の EV 支援策や、膨大な国内需要
 - 国内で実験して、うまくいったら海外展開

まとめ:「ありかも」は BYD の哲学

BYD の車は、「未来感のある発明」を実際にユーザーが触れるレベルで市販しています。

ポルシェやスバルのような伝統的ブランドも、EV 時代の「遊び心 × 機能性 × コスパ」の面では BYD の勢いに警戒せざるを得ません。